

# NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LESSON 6 授業例①

A.S. 先生

## 指導計画表

(全6時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■GET Part 1 ・ プレ活動 ・ 文法の導入 ・ Drill ・ Practice
2	■GET Part 2 ・ プレ活動 ・ 文法の導入 ・ Drill ・ Practice
3	■GET Part 1 & Get Part 2 ・ プレ活動 ・ 本文内容導入・理解
4	■USE Read ・ プレ活動 ・ 本文内容導入・理解
5	■USE Read ・ プレ活動 ・ アクティビティ
6	■USE Read ・ プレ活動 ・ アクティビティ

## 実践例

### 1. Unit 内における USE Read のとらえ方

英語における4つの力のうち、聞く力と読む力を Input 力と考え、話す力と書く力を Output 力と考えた場合、両方も同等に必要な不可欠な力であると考えられますが、英語を学習するにあたっての順序としてはインプットを先に指導していく方が自然な流れであると考え指導にあたっています。学習指導要領に示されている内容を指導する際には、教科書と独自で制作した教材を平行して扱っています。ここでは教科書を中心に扱い、Input から Output の流れに沿った指導法の一つのアイデアを紹介したいと思います。

NEW CROWN の教科書では各 LESSON の中で GET から USE Read へと指導の流れがつけやすく構成されています。そういう意味で USE Read は単なる Reading 力向上の場としてではなく、GET で学習した内容の確認、定着、さらには発展としてとらえ、LESSON ごとの学習の総合的な力を高める場となるように授業の展開を考えています。USE Read を活用することで、Input と Output の両方の力を効果的に高めることができると考えています。各 Lesson 内の文法 POINT は GET での基本を発展させた形で USE Read では扱われているので、GET の本文の内容理解や対話練習とともに、Drill, Practice を行うことにより、よりスムーズに USE Read へと学習を進めることができます。したがって LESSON 全体の指導時間の配分を考えながら、USE Read に力点を置き、生徒の英語運用能力を高められるように指導計画の時間を使うようになっています。

### 2. USE Read に向けた GET の活用

#### (1) GET 本文の扱い

GET 本文が対話文の場合は、内容理解や Reading 練習の他に、ロールプレイで本文を暗記したり、単語を置き換えたりして、オリジナルの対話文を作成させ、発表を行わせたりすることもあります。この

NEW CROWN の本文は単語の置き換えによる Pattern Practice を行いやすい構成になっているので、慣れてくると、生徒は楽しみながら対話文作成と発表を行うことができます。

#### (2) Drill の扱い

Drill を行う際は指導用 CD を使って 1 Listen 2 Repeat 3 Say 4 Write の4つをすべて行うようにしています。まず 1 Listen を、メモなどをとってもかまわないので一度聞かせます。次にクラス全体で文を Repeat させます。このとき一度目では聞き取りきれなかった生徒も全体で Repeat することで、ほぼ聞き取ることができるようになります。次の 3 Say では生徒を指名して言わせ CD からは文を構成する語の一部が流されるので、それを活用する場合と、何も与えないで言わせる場合と使い分けています。これは後の Output への良い練習になります。そして 4 Write で確認を行います。この時、3 Say で言うことができなくても、正確に書くことが難しい単語が出てくる場合があるので、その場合は教科書の後ろに載っている「単語の意味」のページを使って調べながら書くことにより、単語を定着させることもできます。文によっては三単現の s や複数形などにも注意を払わなければならないものもあり、実践にも役に立つと考えられます。

#### (3) Practice の扱い

Practice は状況に応じて、Listen Speak Write の中から行っています。Speak と Write については、そのまま扱うこともあれば、それをもとにした Activity を考え、ALT との TT で活用することもしばしばあります。ここでは Get Part 2 の Speak をもとに行った活動を紹介します。

A: When do you feel happy?

B: I feel happy when I play the piano. How about you?

A: I feel happy when I talk with my friends.

という Speak の例文を参考にして、I feel happy の文節と when I play the piano の文節を使った Battleship Game を行いました。5×5 の表の縦表に

feel で表現される気持ちを表す語を 5 つ示します。横表には接続詞 when を使い、どんな時という表現を 5 つ示します。縦表と横表が交わる空欄の任意の場所 5 カ所に印をつけさせます。ここまでが Activity 前の準備になります。次に相手が印をつけた

表の場所を予想して、交互に質問し合い、5 つ全部先に当て方がゲームの勝者となります。質問には次のような文が用いられます。

A: Do you feel happy when you play the piano?  
 当てられた場合は、Yes, I do. はずれたら No, I don't. と答えます。これを交互に繰り返していきます。このような Activity を入れることで、語学の習得に必要な繰り返し練習を楽しみながら行うことができますと思います。

	study English	watch TV	take a test	play sport	have a chat
happy	○				○
sad					
excited		○			
nervous			○		
tired				○	

Practice のいずれの部分を取扱うにも、次の USE Read の理解につながることを意識しながら行っています。

### 3. USE Read に向けたプレ活動の工夫

英文を読む際に重要な要素となるものの一つにやはり単語力があげられます。単語力を高めるための取り組みには様々なものがあると思います。ここでは普段、授業で継続的に行っている Word Bingo の取り組みを紹介します。

生徒は授業前までに、前もってノートに 9 マスの枠を書き、その中に教科書の Words の中から任意の 9 語を選んで記入し、Bingo を作っておきます。授業の最初に教師がランダムで単語を発音し、生徒はそれを聞き取り、印をつけ、Bingo を行います。単純ですが、単語を書く、聞き取る、聞き取った単語を目で見つけるという行動を毎時間行うことで、

少しずつですが単語力を伸ばすことができると思います。

LESSON 6 を学習している間は LESSON 6 の単語で毎回 Bingo を作るの、何度も繰り返し単語に触れることとなります。工夫としては英語を発音した後、日本語の意味を続けて言ったり、用法について触れたりすることで単語の意味や使い方についても定着させることもできます。時には日本語の意味を先に言ったりすると、生徒がすぐにそれにあたる英語を返したりすることもあります。この Bingo は単語の発音を把握することには特に有効であると思います。LESSON に入るとすぐにその LESSON での Bingo をはじめるので、USE Read に入る頃にはかなり単語が読めるようになっていきます。Words の単語数が多いため、GET Part 1 から Part 2 までの単語で一回戦、USE Read の単語で二回戦目というように、毎回 2 回戦行うようにしています。単語に関しては、LESSON の導入段階から Bingo による取り組みのみで、他に Flash Card などを使ったり、単語の発音をリピートさせることなどはしていませんので、LESSON の終わりなどに発音や意味の確認テストなどを行うようにしています。

### 4. Input 力を高める USE Read の指導

#### ① USE Read の読み方の工夫

英文を読み、そこに書かれている内容をとらえる Input において、丁寧に正しく日本語に訳すことも大切ですが、場合によっては時間内にできるだけ多くの情報を得ることも必要になってきます。現在 USE Read の学習をする時、その内容のとり方として文節読みを取り入れています。生徒は本文の意味をとるときに最初からきれいな日本語に訳そうとし、振り返りをしてしまい、かえって意味をとるのが難しくなってしまうたり、決められた時間内に必要な内容をとらえることができなかつたりしてしまうことがあります。文をある程度意味のあるかたまりで、英語の語順通りに意味をとらえていく文節読みを行わせることで、150 words 前後の文であれば、かなり早い時間で内容を理解することができます。また、このことは英語を母語とする人の読み方、理解の構造を知ることにもなります。

例えば LESSON 6 の中に出てくる比較的長い文で They started to live near the rock over 40,000 years ago. は They started / to live / near the rock / over 40,000 years ago. という具合に区切り、これを前方から意味をとっていきます。彼らは始めた / 生活することを / 岩の近くで / 4万年前に。このように短い区切りの情報を前方から Input していくことで比較的長い文でも、意味をとれるようになってきます。

この文節読みを行ってから、実感として読む速度と記憶にとどまる情報量の多さはあがったように思います。慣れるまでは文節を短く切つてとらせてもよいと思います。またこの文節読みは英文の構成の特徴に慣れ、英文を書いたりする場合の Output にも役に立つと考えられます。Output を行うときに例えば、まず主語がきて次に動詞というように頭の中で文の構造を整理しながら文を構成していくことに加え、文節読みの逆の手順で意味のある、ある程度のかたまりで自分の表現したいことを Output していくことは、より native の表現方法に近づく一つの手立てとなるのではないかと思います。

## ②In-Reading をどの場面で行うか

In-Reading では本文の内容がどの程度理解できているかを異なった形式で知ることができる。一斉に行うこともできますが、生徒の理解力に応じた活用方法をとることで、より有効に取り扱うことができると思います。

理解力の高い生徒については、本文をすべて読み終えてから取り組ませています。可能であれば、再度読みをさせないで In-Reading に取り組ませると、Input の能力を伸ばす良い練習になります。また、先に In-reading を読ませてから、本文を読ませることにより、本文のどの情報を読み取るかを前もって知っておいてから読むことも Input の能力を高める助けになります。

理解力がまだそこまで高くない生徒については、In-Reading に付加情報やヒントを加え、本文を読みながら答えさせるようにしています。具体的には、本文に In-Reading のどの問題に関するのか番号で印をつけ、本文と In-Reading を交互に読んで

いくことで、より理解を深めやすくなります。また、2の「問に答えよう」の部分では答えの語数を示したり、部分的に（ ）抜きにしたりすることも有効な方法だと思います。

## 5. Output 力を高める USE Read の指導

USE Read には生徒が興味を持つトピックが多くあり、読みながら知識を深めていくことだけでも有用ですが、読んで得られた情報を活用し、それを Output に結びつけることで、Lesson の中で総合的に力を高めることができる、より有効な場としてとらえることができると思います。ここでは自分が USE Read で行っている学習法を紹介させていただきます。

### ①疑問文として発信する Output 練習

こちらからの英語での質問を生徒に答えさせることは、日常の授業の取り組みでもよく行われています。生徒は英語の質問に答えることは比較的慣れていますが、質問をすることは少し難しいと感じている場合も多いので、生徒が相手に質問する場面をもう少し多く行わせたい場合に USE Read の全文を疑問文にかえる練習を行わせています。

例えばこの LESSON 6 の USE Read では Ayers rock is a famous place in Australia. の文を Is Ayers rock a famous place in Australia? という具合に疑問文にかえさせます。単純な練習ですが、間違いやすい be 動詞の疑問文と一般動詞の疑問文についての理解も深めることができます。また、この質問を生徒間で Q&A 形式で行わせることで、Input した内容を知識として定着することにも役に立ちます。この練習に慣れてくると少し単語を変化させて、Is Ayers rock a famous place in America? などと質問する内容を変化させることができる生徒も出てきます。すると答えのバリエーションも増え、内容を振り返り、考えながら答える必要も出てきて、より実践に近い Output 練習にすることができます。

### ②Input で得た情報を活用し、Output を行う練習

USE Read はさまざまな国の文化や自然科学などの Topic を扱っていて、生徒は興味を持って

Reading を行うことができます。興味を持って Input した情報を Output に結びつけることで、相互の力をより伸ばすことができると思います。

LESSON 6 の Ululu では Output の練習として Quiz about Australia を行いました。これは生徒が班ごとに USE Read を参考にしながら、インターネットなどで調べた情報を加え Australia についての Quiz を作成し、発表し合うというものです。Quiz を作ることで、USE Read で得た知識をふくらませながら、さらに自分たちで知識を深めていくことができます。自分が持っている知識を他の人と共有したいというのは自然な欲求で、生徒は楽しみながら発表を行うことができます。この問題を作るときに先に触れました USE Read を全文疑問文にすると、この取り組みが生きてきます。例えば本文の *It looks like a mountain, but it is actually a very big rock.* を解答としたい場合には質問として *Is Ayers Rock a mountain or a rock?* などが考えられ、生徒は疑問文と答えの文の関係もより理解を深めることができます。教科書に載っていること以外では *Is Ayers Rock the world's largest mountain?* (生徒からの質問があれば、必要に応じて次の Lesson で習う最上級の先取りをしてもよいと思います。) *No. It's the world's second largest.* などの質問も出てきます。

USE Read を活用して継続的に取り組みを行うことで、USE Read は単に読みもの資料ではなく、生徒の興味を引き出し、自発的に英語を使ってみようとする意欲を育てる教材になり得ると思います。また、さらに映像教材などと組み合わせることにより、いっそう効果的な授業展開が行えると思います。